

田原市博物館

企画展「海から広がる渥美半島展」

開催期間：2022年10月8日（土）～2022年11月27日（日）



【企画展の目標】

■ 渥美半島に生きてきた人々は、縄文時代の昔から海とともに暮らし、生活の糧としてきました。ただし、現在では多くの人々が「陸（おか）に上がり」、日々の生活、仕事から海が縁遠くなっています。本企画展では、渥美半島の人々の海との関わりの歴史を「海から広がる」をテーマに過去から現在までみていきます。

■ 本企画展では、子どもや来館者に、楽しみながら見学していただく仕掛けとして、子ども向け展示の補助、学びの手引きとなる印刷物の作成、イベント開催等を行いました。具体的には、親子で楽しみながら参加できる「おサカナまるごとウォッチンぐ」「海から知る！渥美半島親子向けバスツアー」の開催や、小学校の社会科見学に対応した「ワークシート」「海の学びリーフレット」の作成を行いました。

■ 当館が「海を学ぶ」企画展に取り組むのは初めてのこととなります。今回の企画展を嚆矢として、今後も海をさまざまな観点からとらえた研究や展覧会、イベントの開催をしていきたいと考えています。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2022年10月8日（土）～2022年11月27日（日）
- 開催場所：田原市博物館 企画展示室1・2、研修室
- 入場者数：2,269人



田原市博物館 外観



企画展会場 入口



第1章「渥美半島と取り巻く海が作るもの」では、渥美半島を構成する岩石（特に石灰岩とチャート）と太平洋岸から出土した30万年前の貝の化石（貝の種類は現在でも渥美半島で普通にみられるもの）から、渥美半島の多くの部分が海中であった時代が長いこと、渥美曲隆運動によるプレートの盛り上がりや砂礫の堆積、それと波の浸食により現在の渥美半島が形成されたことを説明しました。



第2章「海を通してもたらされたもの、運び出されたもの」では、これまでも当館で展示してきた「渥美半島の歴史でおなじみの資料」の数々、例えば縄文時代の貝輪、弥生時代の銅鐸、古墳の副葬品、中世のやきものなどを、視点を変えて「何らかの形で海と関わりを持っているもの」という形で紹介してみました。人の手によるものだけでなく、海流に乗って遠方から漂着したクジラや、ココヤシの実などを、そのストーリーとともに紹介しました。



第3章「渥美半島と海の恵み」では、この半島に生きる人々が周辺の海に生きる会や魚などを得て、食料とするとともに、加工して売ることによって生計を立ててきたことを紹介しました。まず縄文時代の貝塚から多くの魚介類やほ乳類の骨が出土していることを紹介しながら、近世以降の渥美半島に代表的な漁として、地引網、海苔の養殖、アサリ採りを探れた魚のレプリカや実際の漁具の展示を行い紹介しました。



第4章「伊勢湾・三河湾海運と渥美半島」では、主に江戸時代から20世紀半ばまでの渥美半島の海を通じた物流について取り上げました。長さ10数メートル程度の小さな船が、三河湾、伊勢湾内を航走し、地域の生産したものや生活物資を運んでいたことを主に地域に残る文書資料から紹介するとともに、伊勢神宮への参拝に漁船で向かったり、相次ぐ海難事故対策で地元住民が灯台を建てるなど、渥美半島ならではの話題も取り上げました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第5章「新たな海の玄関口の整備」では、20世紀後半の社会や産業の大転換期に、新しく整備された3つの港—三河港・赤羽根漁港・伊良湖港を主に取り上げました。特に三河港は大幅な土地の埋立てによる工業地帯の建設を伴い、渥美半島の産業を大きく変化させたものである一方、第3章で海苔やアサリなどの豊かな漁場を潰してできたものであることを児童などの説明では強調し、海と人との関わり方について考えてもらうよう心掛けました。



第6章「海に生きる、海を守る」では、現在の渥美半島をめぐる海でさまざまな営みを行っていたり、海を守る活動を行っていたりする企業や団体を紹介しました。また、ビーチコーマーの協力を得て、現在の渥美半島の海岸に漂着する「よりもの（漂着物）」を展示しました。

【来館者の声】

- 三河湾、遠州灘も渥美半島に住んだ多くの民に恩恵を与えてくれたのを実感した。
- 渥美半島の成立や、古代～現代の人々の優れた暮らし方を知ることができた。
- 海について楽しく学べた（クイズみたいで楽しいです）。
- 海上交通の利便性だけでなく、経済の影響もあってルートが変わるのがおもしろい。
- 渥美半島の成立や、古代～現代の人々の優れた暮らし方を知ることができた。
- いろんなものを人がごみとして自然に捨てていて、人のこわさを知った。
- 漂着物の展示は大きなものや海外のものがあるというインパクトがあった。
- ウミガメがくると海ですっとあってほしい。
- 貴重な資料をよく集めたと思う。常設のものに限らず、地域の貴重な資料をこれからも掘り起こしてほしい。

2. 関連事業の内容

■①海の学びギャラリートーク

【開催日時】2022年10月8日(土) 11:00~12:30
2022年11月3日(木・祝) 13:30~15:00

【開催場所】田原市博物館企画展示室、研修室

【参加者数】13名/14名

【目標・内容】

- 学芸員との直接交流による展示解説。学芸員と対話をしたり、ワークシートを活用したりしながら、海の歴史を学び、そして自分が海についてできることを考えてもらう内容として実施しました。
- 参加者には海を保護する活動をしている方や、展示資料に関わる内容を直接体験している方が何人もいて、説明者自身にも新しい発見がありました。



展示の説明とあわせて、この地域の高齢者などから聞いた展示に関するエピソードを紹介するなどして、地域と海とのつながりをより密接に感じてもらえるように努めました。上記のように参加者には海を保護する活動をしている方や、展示資料に関わる内容を直接体験している方が何人もいたこともあり、体験に根差した海の世界を語る場ともなりました。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■関連事業名②海から知る！渥美半島親子向けバスツアー

【開催日時】令和4年11月6日（土）9：30～16：30

【開催場所】田原市博物館、蔵王山展望台、日出の石門、谷ノ口海岸ほか

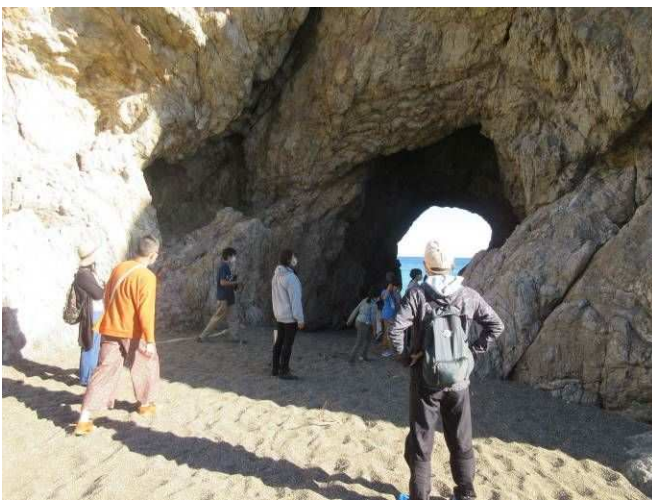
【参加者数】15人

【実施内容・目的】

- 親子連れを対象に、企画展の開催期間中にジオ（自然）と歴史に関する田原市内のスポットをジオガイドと一緒に巡って、渥美半島と海との関わりを知ってもらうイベントとして開催しました。



最初に博物館の企画展で、学芸員から渥美半島と海の間わりについて全体的な解説をし、その後、バスで渥美半島内の「海の学び」に関わるジオ（自然）や歴史のスポットを巡りました。それぞれのスポットで、ジオと歴史の視点から紹介をし、渥美半島と海は様々な間わりがあることを現地で見ていただきました。



ツアーで巡った場所は、渥美半島を一望できる蔵王山、海を通して運ばれてきた花崗岩が使われた江比間町の石積み、チャートの巨岩を見ることができる日出の石門、海食崖を観察できる谷ノロ海岸などです。一見すると海と関わりがなさそうな場所であっても、海との関係を紹介すると参加者は興味深そうに聞いており、海について知ってもらうことができました。

【来館者の声】

- 海が全世界とつながり、時間軸が非常に長いことを知りました。
- 説明が聴けると非常に理解し易いと感じました。
- 陸の石垣が海にちなんでいることは普段考えたことがなかったので興味深かったです。
- いつまでも魚がいられる海にしたいと思った。
- いつまでも海と一緒に生活できていけるとよいと思った。

■関連事業名③海の学び体験学習プログラム

「おサカナまるごとウォッチング」

【開催日時】 2022年10月14日（金）16：05～17：30

2022年10月15日（土）10：00～12：00

【開催場所】 田原中学校（理科室）／華山会館（レセプションホール）

【参加者数】 31名／7組17名

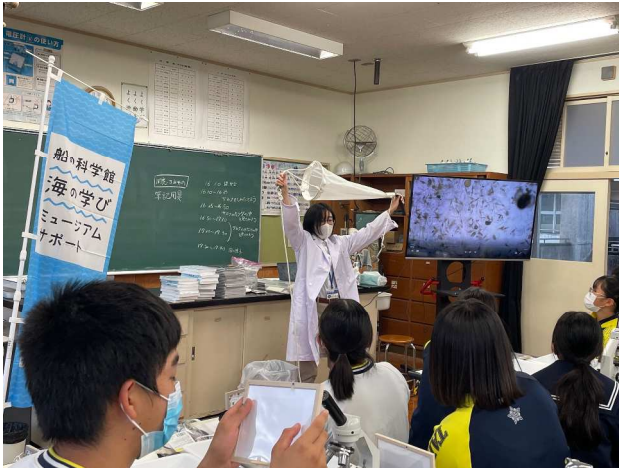
【実施内容・目的】

- 船の科学館 情報・ノウハウのサポートを受け、船の科学館学芸員による子ども向け自然科学系の体験型の特別講座を開催しました。
- 子どもたちの目線にあわせた講座内容の提供により、子どもたちは、さかなの生態や、さかなを通して海洋環境保護の重要性を学び、海についての理解を深めることができました。



歴史系博物館である当館には、参加・体験型の学びのノウハウが少ないことから、自然科学分野の教育普及活動として、船の科学館学芸員による「おサカナまるごとウォッチング」を開催しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



初日は、顕微鏡の貸し出し協力をした地元中学校で特別開催。学校からは、「実験時間が減少するなか、貴重な体験を子どもたちに提供できて、ありがたい」とコメントがありました。理科教諭や校長もプログラムを見学しました。中学校は、ボランティアサークルの活動として、海の大切さを知る活動を、継続しています。



「おサカナまるごとウォッチンぐ」は、煮干し（イワシ）を解剖し、胃の内容物を顕微鏡でみることで、海の環境について考えてもらう講座ですが、まずパズルや標本づくりにより、魚の体の構造に親しむことで、参加者が自分でイワシの解剖ができるよう工夫されていました。また、「海」と「地元の海」をつなげるため、講師が地元の海岸でプランクトンを採取し、紹介したことにより、参加者にとって、講座がより身近なものになりました。

【来館者の声】

- 魚がどのような体のつくりになっているか分かったので、その魚がいる海を大切にしないといけないと、改めて感じました。
- エサのプランクトンが増えれば、魚もふえると思っていたけど、そうじゃないことがわかりました。お世話になっている海に、きちんと恩がえしできるようにしたいです。
- 身近な煮干しからプラスチックの存在を考えさせられました。

■関連事業名④海の学びスタンプラリー

【開催日時】2022年10月8日（土）～11月27日（日）

【開催場所】市内17スポット

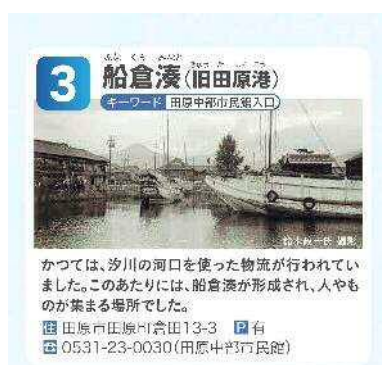
【参加者数】配布数 3,785枚 応募者数 513人

【実施内容・目的】

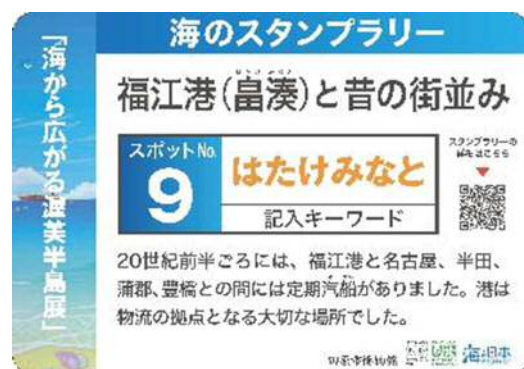
- 企画展で取り上げるポイントを含めた、渥美半島の海を知ることができる場所を実際に訪問してもらい、海に親しみを持ってもらうことを目的に、誰でも参加できるスタンプラリーを実施しました。
- スタンプラリー台紙は、スポットにまつわる写真と海に関するコメントを付記し、スタンプラリーに参加しない方でも、海についての知識を深めてもらえる内容としました。



海に関係する場所12か所と、海の学びのイベント5か所をスポットとしてつなぐスタンプラリーを実施しました。



スタンプラリー台紙



キーワードパネル

スタンプラリー台紙には、スポットにまつわる写真と海に関するコメントを付記し、台紙を見るだけでも、渥美半島の海についての理解を深めてもらえる内容としました。また、現地のキーワードパネルには、さらなる情報を掲載し、現地を訪問した方が、より深い知識・気づきを得られるよう工夫しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



海に隣接する道の駅 あかばねロコステーションで
スタンプラリーを展開



スタンプラリーは、道の駅の協力を得て、「海の恵みが当たる」賞品付き、たくさんの方に参加していただけるよう道の駅での配布も行い実施しました。事業を通し、道の駅の方たちにも、地元の歴史や、現在の海の利活用について知ってもらうことができました。道の駅



海での実際の活動に、参加しやすくするため、海岸清掃やウミガメの観察など、海で活動を行う方たちのイベントも、学びのイベントとして5つ、スポットとして紹介しました。スタンプラリーから、イベントに参加した方、またイベントからスタンプラリーを知った方などがおり、海についての知識を深めてもらうことができました。

活動を行う方たちにも、地元の歴史や、現在の海の利活用について知ってもらい、自分たちの活動に海の歴史についての紹介を加えてもらうことができました。

【来館者の声】

- 渥美半島の海の絶景に感動しました。美しい海を守っていかないとと思いました。
- 田原市に越えてきて 40 年余になりますが、よく知らないことが多く、この度、半島の誕生から海からいろいろな恵みを得て栄えてきたことを知りました。
- 海との様々なつながり過去と現在が知れてとても良かったです。
- 地元のことがよりわかった。
- 学びの活動に参加してみたかった。海をきれいにしたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■関連事業名⑤学校連携ワークシート

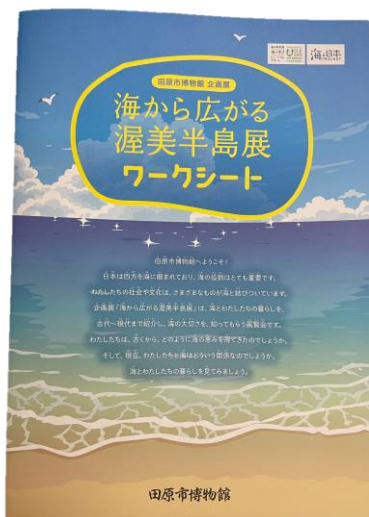
【開催日時】2022年10月8日（土）～11月27日（日）

【開催場所】田原市博物館

【参加者数】配布数 1,000人

【実施内容・目的】

- 企画展を楽しみながら見学できることを目的に、各章の展示資料の見どころをクイズ形式でつなぐ見学用ワークシートを作成しました。内容は小学5年生が自分で関心をもって進められる程度の内容としました。
- シートは社会見学だけでなく、一般希望者にも提供しました。博物館の楽しみ方がわからない、子どもとどう見学したら良いかわからないという方でも、楽しみながら見学ができたと好評でした。



ワークシートは、市内で焼かれ奈良に海から運ばれた東大寺瓦など、各章から、子どもたちに特に見てほしい資料を抜粋して作成しました。社会見学に来た子どもたちが、学芸員の解説のあと、自ら資料を探しながら展示を学ぶことを想定し、作成にあたっては、田原市教職員会社会科部会にアドバイスをもらい、小学校5年生の学習に合わせた内容、字の大きさとなるよう工夫しました。



「貝づくし渥美」応援キャラクター「かいくん」



約 200 点の資料から、時間内にワークシートと同じ資料を見つけるのは難しいため、渥美商工会の協力を得て、「貝づくし渥美」応援キャラクター「かいくん」をヒントとする取組をおこないました。ゲーム的な要素で、より子どもたちが、楽しみながら自発的に展示を見学することにつながりました。



ワークシートの配布は、一般希望者にも提供しました。
漂着物の展示と合わせ、「子どもが見たい、やりたいというので…」と複数回来館し、ワークシートを数回やった来館者もあり、子どもが楽しめる展示の重要性を感じました。

【来館者の声】

- クイズのときかいくんをたくさん探せました。海は大切だなと思いながら学んでいました。
- 子どもでも分かりやすくて楽しかった。
- 渥美半島展がとてもよかったです。子どもも連れて行って一緒に楽しめました。海的环境についてわかりやすく学べました。(子どもも)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■関連事業名⑥オープニングコラボ 吉胡貝塚資料館縄文まつり

【開催日時】 2022年10月10日（月・祝） 10:00～15:00

【開催場所】 吉胡貝塚資料館（吉胡貝塚史跡公園）

【参加者数】 305人

【実施内容・目的】

●子育て世代に、「海との関わり」を紹介し、興味を持ってもらうことを目的に、対象世代が多く参加する吉胡貝塚資料館のイベントに、海の学びの要素を加え、企画展のプレイベントと位置づけ、体験型の学びの場を提供しました。



会場：吉胡貝塚資料館・吉胡貝塚史跡公園



吉胡貝塚資料館の恒例イベント「縄文まつり」を、企画展の付帯事業「海から広がる！縄文まつり」として、海との関わりを学べる体験型のイベントとして開催。特別イベントのほか、企画展紹介や、海のスタンプラリー用紙の配布を行いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



特別イベントとして、「海の生き物に触ってみよう」、地元中学生による生き物の紹介、フェリー会社によるパーパークラフト・船長服を着てみる体験などを実施。子供たちに、楽しみながら海と関わる体験を提供しました。開始時間前まで、警報級の豪雨となるなか、多くの家族連れが来場しました。



体験型の学びの場を提供したことで、子ども・子育て世代に、企画展の内容や、資料館・博物館について知っていただく機会となりました。

【来館者の声】

- 縄文時代という昔から海の幸を食べていて、私たち祖先から海が身近な生活の一部であることを改めて知ることができました。
- 海の生き物をさわれるコーナーで実物をさわってその生き物について説明してくれたのが分かりやすく良かったです。
- シェルマよしこの無料開放で館内をみて1歳の息子が楽しんでました。人は昔から海の物を食べ、身につけ深く関わっていたんだと思いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■関連事業名⑦海の学びパネル展示

【開催日時】2022年10月8日（土）～2022年11月27日（日）

【開催場所】道の駅田原めっくんはうす、あかばねロコステーション、吉胡貝塚資料館

【参加者数】一人

【実施内容・目的】

- 企画展への誘導と、渥美半島の海との関わりを伝える目的で、企画展を総括するタペストリーを作成し、道の駅等で展示をしました。
- イラストは、渥美半島の海に関する歴史的な資料と、現在の漂着物や活動を合わせたものを作成。博物館・観光団体の共通認識として、ひと目で渥美半島と海のつながりがわかる、タペストリーとなりました。



イラスト：林重雄



道の駅田原めっくんハウス
(田原市観光案内所)



道の駅あかばねロコステーション



イラストは、渥美半島の海に関する歴史的な資料だけでなく、漂着物・海岸の生態に詳しい日本漂着学会 林重雄氏の協力により、現在の海で見られる漂着物や植物も適切にイラストに盛り込むことができ、ひと目で渥美半島と海のつながりがわかる資料となりました。

このタペストリーは、企画展終了後も、道の駅田原めっくんはうす（田原市観光案内所）、道の駅あかばねロコステーションで掲示され、渥美半島の海の魅力を伝えていきます。

■ 関連事業名⑧クロージングコラボ表浜自然ふれあいフェスティバル

【開催日時】 2022年11月26日(土) 9:00 ~ 9:50

【開催場所】 谷ノ口海岸はじめ市内9海岸

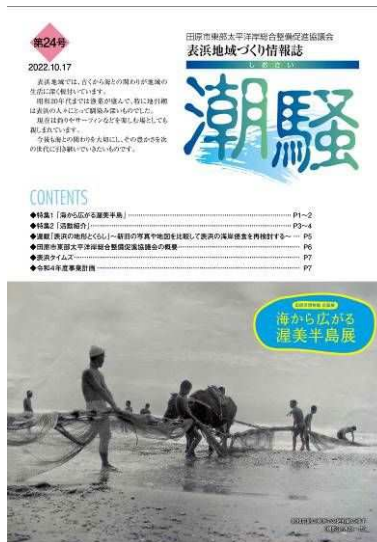
【参加者数】 785人

【実施内容・目的】

- 海の学びを全市的にPRするため、表浜海岸を守る活動として、毎年地域と市が行っている清掃イベントを企画展のクロージングコラボと位置づけ、イベントでの企画展紹介、スタンプラリー、記念品を配布しました。
- すでに、海を守る活動を行っている地元のたちに対し、歴史系博物館ならではの視点で、海の重要性と史実を紹介することで更なる目的意識、知的好奇心の向上を促すことを目的として実施しました。



ふれあいフェスティバルでは、イベント開始時に、博物館副館長より、企画展について紹介。地域で守っている海が、どのようにして形成され、守られてきたのかを紹介し、参加者の更なる目的意識や、海の活動のひろがりを目指しました。イベントには、他の付帯事業に参加した中学生も初参加するなど、海の活動に広がりが見られました。



イベントに先行して、協議会が発行する表浜地域づくり情報誌「潮騒」(7000部)にも、表紙と見開き2ページで、企画展の紹介と、かつて地元で行われていた地引網の様子について紹介する特集ページを掲載しました。

【来館者の声】

- 直接海を感じ、ごみを拾うことで問題意識をもてた。くだけたプラごみが多い!
- ごみひろいをしてきもちよかった!
- 表浜ふれあいフェス参加しました。おつかれさまでした。
- 海岸清掃の活動に参加しました。地元の子ども(中学生?)も多く参加していておどろきました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■関連事業名◎田原中学校ボランティアサークル「たはランティア」との連携

【開催日時】 2022年10月8日（土）～11月27日（日）

【開催場所】 田原市博物館ほか

【参加者数】 79人

【実施内容・目的】

- 田原中学校ボランティアサークルたはランティアが行う、田原の海のすばらしさを伝える活動「田原水族館計画」を、企画展の付帯事業と位置づけ、次世代を担うたはランティアに海の学びを支援するとともに、発表を通し、幅広い方に田原の海の素晴らしさを紹介しました。



博物館敷地内に、たはランティアが採取した海の生き物を展示 11/19-28



成果発表＆海の生き物タッチ 11/19 のべ130名が来場



11月19日（土）より1週間、博物館敷地内にたはランティアが採取した、海の生き物を展示しました。展示用にたはランティアが生き物の採取を行う際は、博物館スタッフが、同行し、かつての漁業の様子や、現在の漁業など、地域の海の歴史について紹介しました。中学生の活動は、新聞にも掲載され、小さなお子さん連れや、中学校区の方など、幅広い世代の方が来場しました。

成果発表&海の生き物タッチでは、中学生が自分達で、生き物について、また自分達の活動内容について来館者に伝えました。たはランティアは、今年度以降も、海の大切さを伝える活動を継続していく予定です。

【来館者の声】

- 孫を連れて、はじめて博物館に来た。このようなイベントをたくさんやってほしい。
- いろんな魚がいておもしろかったです。海をきれいにしたいです。
- 渥美半島の魚や貝に特化した水族館を作ってほしい。
- 中学生が自分達で考えたことを発表しており感動した。

■関連事業名⑩海から広がる渥美半島展 圧縮版

【開催日時】2022年12月2日(土)～2022年12月27日(火)

【開催場所】田原市博物館 企画展示室2、研修室

【入館者数】458人

【実施内容・目的】

- 企画展「海から広がる渥美半島展」の好評を受けて、企画展終了後も、展示内容を要約した「圧縮版」の展示を行いました。
- 具体的には企画展展示資料から特にワークシートに関連づいた資料を抜粋し、企画展示室2に集めました。また、第6章「海に生きる、海を守る」は、企画展の展示内容を継続するとともに、市内の学校から「自分たちの海の学びを展示させてほしい」とリクエストをうけて、2校が作成した成果物を展示しました。



企画展示室2では、企画展「海から広がる渥美半島展」の第1章から第5章までを大幅に圧縮して展示を行いました。

企画展では大量の展示を、主に子ども向けとしたワークシートで筋立てを理解するという形となっていた(こうしたことから、ワークシートはむしろ大人から好評だった)が、圧縮版ではワークシートに関連した展示を中心とした。このため、どちらの展示も見てくださった方からは、「展示が簡潔になってわかりやすかった」との声をいただきました。



研修室では、第6章「海に生きる、海を守る」の展示を継続しました。



第6章で、海を守る活動を行う団体を紹介したところ、市内の学校から、自分たちの海の学びを展示してほしいとリクエストがあり、「漂着物で作成したモニュメント」（田原中学校）と「海の魅力パンフレット」（若戸小学校）を展示しました。冬休み期間も重なり、自分達の展示を見に博物館に来館する児童生徒も見られました。

また、企画展を通し、講師や出品協力をした Bluedrop 松野弘美さんが、展示以降、海の学びを自らの活動（ビーチコーミング、生き物タッチ）に積極的に取り入れています。松野さんの後押しで、このような学校の展示や、田原市教職員会総合的な学習部会の研修などが実現しました。こうした協力者を得られたことも、博物館として大きな成果となりました。

【来館者の声】

- 海のことをもっと知りたくなった。
- ワークシートがよかった。
- 歴史のことをもっと知りたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【事業全体のまとめ】

企画展「海から広がる渥美半島展」は、歴史系博物館である当館がはじめて、海の学びをテーマに、過去の歴史から現在の活動まで焦点を当て、子どもも楽しめる企画展を目指し行った展覧会です。企画展では、第1章 渥美半島と取り巻く海が作るもの、第2章 海を通してもたらされたもの、運び出されたもの、第3章 渥美半島と海の恵み、第4章 伊勢湾・三河湾海運と渥美半島、第5章 新たな海の玄関口の整備、第6章 海に生きる、海を守るの6つの章をたて、渥美半島の人たちと海の関わりの歴史について、過去から現在まで紹介しました。また、特に第6章及び付帯事業では、歴史上の海と現在の海をつなぐ役割として、現在海を使って活動をする企業や、環境学習など海を守る活動をしている団体に焦点をあて紹介しました。

来館者アンケートでは「渥美半島の海の歴史を知ることができた」「海を守る活動に参加したくなった」といった声、展示に協力をしてもらった企業・団体からも「(企画展で海の歴史を知ること)自分たちの活動の幅が広がった」「今後も、海に関する展示を行ってほしい」という声がありました。また、今回の企画展を契機に、市内の2つの学校で、海の生き物や海洋汚染についての学びの活動が開始されたのは大きな成果です。

海について学ぶことは、三方を海に囲まれた渥美半島に位置する田原市にとって、ふるさとを学ぶことに直結します。当館では、今回の展覧会で得られた多くの海に関する知見を活かし、今後もふるさとの歴史の1テーマとして、海に関する展覧会を開催していきます。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 鳥羽市海の博物館	資料の貸借・情報提供
2. 豊橋市自然史博物館	資料の貸借・情報提供
3. 小松原山東観音寺	資料の貸借・情報提供
4. 船の科学館	付帯事業(海の学び体験学習プログラム)への講師派遣。子どもを対象とした自然科学系講座のノウハウ提供。
5. 国指定史跡 吉胡貝塚 (吉胡貝塚史跡公園・吉胡貝塚資料館)	付帯事業(縄文まつり)開催。海の生き物に触れる講座やフェリー会社の出店で、楽しく海を学んだ。
6. 道の駅 「めっくんはうす」・「あかばね口コステーション」	年間80万人以上が来場する道の駅。付帯事業(スタンプラリー)での賞品協賛、事業PRを実施。
7. 田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会	地域情報誌の紙面提供(表紙、見開き2P)、付帯事業(表浜自然ふれあいフェスティバル)開催。
8. 田原市教職員会 社会科部会・総合的な学習部会	付帯事業(ワークシート)へのアドバイス、海の学びを学校教育の場へ展開。
9. 田原中学校ボランティアサークルたはランティア	付帯事業(海の学び体験学習プログラム)への資材提供、付帯事業(たはランティアとの連携)として海の学びの発表・実施。
7. 林重雄、BlueDrop 松野弘美	企画展への漂着物の展示協力、付帯事業(縄文まつり)への協力。

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 東愛知新聞	海と生きる渥美半島、10月7日
2. 東日新聞	体験できる縄文まつり、10月8日
3. 東愛知新聞	縄文まつり楽しむ、10月12日
4. 東日新聞	身近な海と歴史が学べる、10月17日
5. 中日新聞	海の恵み 渥美半島の今昔、10月27日
6. 中日新聞	田原中生が捕ってきた 地元の魚で水族館開く、11月5日
7. 中日新聞	田原中生の水族館 成果発表とタッチ会 19日開催 ぜひ来てね、11月17日
8. 東日新聞	海の生き物とふれ合って、11月21日
9. 朝日新聞	海 渥美半島と深い関係、11月23日
10. 東愛知新聞	海の生き物を研究紹介、11月29日
11. NHK	海から広がる渥美半島展、11月14日
12. 産経新聞	【わたつみの国語り 第5部】(1)大海原を渡ってきたヤシの実 民俗学者・柳田国男が追い求めた日本人の起源、1月25日

以上